

---

## 「天気」原稿執筆要領

### 1. 用紙とレイアウト

- ① ワープロの場合：A4白紙（縦）に横書きで1ページに24字×44行で印刷する。マージンは、左右50mm以上、上下30mm以上とし、ページ番号をつける。
- ② 手書きの場合：横書き原稿用紙（400字あるいは500字詰）を使用する。なお英文要旨と英文による図表の説明文をつける場合、これらについては手書きは不可とする。

### 2. 原稿の長さ

原稿の長さは原則として、図表も含めた印刷ページ（印刷1ページは約2000字）で以下の通りとする。

- 論文：12ページ以内
- 短報：6ページ以内
- 解説：20ページ以内
- シンポジウム，研究会報告，最近の学術動向，天気  
の教室，気象談話室，海外だより，情報の広場，気  
象業務の窓：6ページ以内
- 調査ノート：4ページ以内
- 新用語解説，質疑応答，本だな，会員の広場：2ペ  
ージ以内
- 情報 File：1ページ以内

### 3. 構成

- ① 第1表に示す構成とする。

第1表 各原稿の様式。

○：必要，※：記載事項があれば必要，△：任意，  
-：なし

	論文	短報	解説	その他
和文表題	○	○	○	○
著者名，所属機関名	○	○	○	○
責任著者の電子メールアドレス	△	△	△	△
内容分類番号，キーワード	○	○	○	○
要旨	○	△	△	-
英文の著者名	○	○	○	○
英文表題	○	○	○	△
英文の所属機関名・住所	○	○	○	-
英文要旨	△	△	△	-
本文	○	○	○	○
謝辞	※	※	※	※
略語一覧	※	※	※	※
参考文献	※	※	※	※
付録	※	※	※	※
図表の説明文	※	※	※	※

\* 本だな，質疑応答，その他ごく短い記事については，より簡易な形式も可。

\*\* 本だな，および情報 File 等の連絡記事には「内容分類番号」「キーワード」は不要。

- ② 論文などの和文要旨は400字以内とする。論文・短報・解説に英文要旨をつける場合，300語以内とする。
- ③ 節番号は「3.」，「3.1」，「3.1.1」とする。文中で簡条書きが必要な場合には，①，②…などとする。
- ④ 付録中の節番号は「A.1」「A.1.1」のようにする。付録が2つ以上ある場合は「付録A」「付録B」…として区別する。
- ⑤ 脚注はなるべく用いない。

## 4. 表記

### 4.1 著者名・所属機関名の表記

所属は郵便物が確実に届く程度のもの（大学の場合は学部程度）を書く。役職名は原則としてつけない。著者と所属の対応関係を，\*や\*\*を用いて表記する。具体的な書き方は最近号の例を参照のこと。

### 4.2 内容分類番号，キーワード

内容分類番号は，別表の中から該当するもの1件以上を選び，その番号を記す。キーワードは記事の内容に相応しい任意の語を1つ以上，カッコに入れて記載する。

・記載例 104:105:7 (集中豪雨；二つ玉低気圧)

### 4.3 文中の表記

「天気」の読者にはいろいろな分野の人がいることを考え，特定の分野や業種内でのみ通用する言葉の使用は控えるものとし，止むを得ず使う場合は説明をつけることを原則とする。ただし，学会誌としての簡潔さを損なわないよう適宜配慮する。

以下に指針を示すが，原稿の性格などによっては柔軟に対応する。

- ① 気象用語は気象学会「オンライン気象学用語集」（現在作成中）や「文部省学術用語集気象学編」を参考とする。外国語を使う場合は，日本語としての用例が少ないものを除き，カナ書きにする（ハリケーン，フェーンなど）。外国語のカナ表記の指針は特に定めないが，当該記事の中で表記がばらつかないようにする。
- ② 外国の人名・地名は，社会的知名度の高いものはカナ書きとする（ニュートン，ロンドン，ロッキー山脈など）。それ以外は状況に応じて原語を併記し，あるいは原語表記にすることができる。
- ③ 数字は算用数字を使うが，「数百」「十数回」「三角形」のような熟語的なものは例外とする。年号は原則として西暦を用いる。時刻は24時間制とし，必要に応じて日本時間（JST）と世界時（UTC）の区別を明記する。経緯度は「北緯30度」「30°N」のどちらでも良い。
- ④ 単位はSI単位系による（「オンライン気象学用語集」の別表参照）。止むを得ず他の単位を使う場合はSI系への換算式を示す。
- ⑤ 国内の機関名は省略せず完全形を記す。ただし，簡潔さを要する報告記事の場合などは，誤解を生じない範囲で略称を使用できる（「東大大気海洋研」など）。
- ⑥ 略語を使う場合には，初出時に完全形を書くか，本文の末尾に略語表をつける。機関名やプロジェクト名の略称についても同様である。
- ⑦ 句読点は誌上では「，」「.」と印刷されるが，原稿は「,」「。」でもよい。

### 4.4 数式

数式は上下に1行ずつあけて明瞭に書き，引用するときのために右端に(1)，(39)などのように原稿全体にわたっての通し番号をつける。付録中の式は(A1)のように，本文とは別の通し番号をつける。

## 5. 参考文献

### 5.1 文中での引用方法

- ① 著者が2人以下の場合には全員の姓を書き、発表年を記す。
  - ② 著者が3人以上の場合には第1著者に「ほか」(和文論文)または「*et al.*」(欧文論文)をつけ、発表年を記す。
  - ③ ①, ②により、同じ表記になる文献が複数ある場合には、発表年にアルファベットをつけ、岡田(1972a), 岡田(1972b)のようにして区別する。
- ・記載例:  
 …解析の結果(松野 1970; Klemp *et al.* 1981a, b; 二宮・秋山 1991)は…。…は浅井ほか(1981a)や Kraus and Businger (1994)が調べている。

### 5.2 参考文献欄の記載順

和文・欧文の区別なく第1著者名のアルファベット順に並べる。同じ第1著者の文献が複数ある場合には、

- ① 著者が1人のものを年代順に並べ、
- ② 次に著者が2人のものを第2著者のアルファベット順に並べ、
- ③ 次に著者が3人以上のものを、著者数に関係なく年代順に並べる。

### 5.3 各文献の記載方法

- ① 雑誌中の文献: 著者・年・表題・雑誌名・巻又は号番号・ページまたはdoiの順とする。
    - a. 著者: 原則として著者全員を下記の記載例の様式で書く。
    - b. 表題: 欧文文献の場合、冒頭と固有名詞を除いて小文字で書く。
    - c. 雑誌名: 和文誌名は原則として略記しない。欧文誌の略記法については最近の本誌参照。
    - d. 巻・号とページ:
      - ・巻全体の通しページがある雑誌は、巻番号(ゴシック)と通しページを書く。
      - ・巻全体の通しページがない雑誌は、5(12)のように巻番号(ゴシック)に続けて、号番号を括弧で示し、号毎のページを記す。
      - ・号番号だけで巻番号のない雑誌は、括弧でくくった号番号とページを示す(以下の例参照)。
- ・記載例:  
 Klemp, J. B., R. B. Wilhelmson and P. S. Ray, 1981:

Observed and numerically simulated structure of a mature supercell thunderstorm. *J. Atmos. Sci.*, **38**, 1558-1580.

松野太郎, 1970: 重力波と地衡風運動. *天気*, **17**, 349-352.

二宮洸三, 秋山孝子, 1991: 梅雨前線帯の cloud cluster. *気象研究ノート*, (172), 135-209.

- ・論文・短報以外の記事では、著者数がおおむね10人以上の文献を下記のように略記できる。

Onogi, K. *et al.*, 2007: The JRA-25 Reanalysis. *J. Meteor. Soc. Japan*, **85**, 369-432.

余田成男ほか, 2008: 日本における顕著現象の予測可能性研究. *天気*, **55**, 117-126.

- ② 単行本の引用: 著者・発行年・書名・出版社・引用ページあるいは総ページの順とする。書名中の主要単語は先頭を大文字にする。

- ・記載例:

浅井富雄, 武田喬男, 木村龍治, 1981: 雲や降水を伴う大気. *大気科学講座2*, 東京大学出版会, 249pp.

Kraus, E. B. and J. A. Businger, 1994: *Atmosphere-Ocean Interaction* (2nd ed.). Oxford Univ. Press, 362pp.

- ③ 共同執筆書の一部引用: 著者・発行年・表題・編集者名・書名・出版社・引用ページの順とする。表題・書名の書き方は上記①, ②と同様にする。

- ・記載例:

木田秀次, 1998: 地球を巡る大気の流れ. *新教養の気象学*, 日本気象学会編, 朝倉書店, 61-72.

Defant, F., 1951: Local winds. *Compendium of Meteorology* (T. F. Malone, ed.), Amer. Meteor. Soc., 655-672.

- ④ Web ページの引用: 著者・年・表題またはサイト名・URL, 最終閲覧日。

- ・記載例:

気象庁, 2011: 気象観測統計の解説. <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/kaisetu/index.html> (2011.10.28閲覧)。

- なお、Web ページの内容を引用せずその存在だけを提示する場合には、本文中に直接 URL を記載してもよい(脚注の使用は避ける)。

## 6. 図表

- ① 図は電子ファイルまたは A4判用紙に描き、図番号をつける。

- ② 線の太さや文字の大きさは、印刷時に縮小されても見づらくないよう十分注意する。また、カラーの

図を白黒印刷する場合、トーンが明確に判別できるよう注意する。これらは、投稿前にプリントアウトして確認することが望ましい。

- ③ 図の掲載時の横幅は、2段組の片段の場合67mm、1.5段の場合106mm、2段にわたる場合は145mmの3通りである。図毎に印刷時の大きさを指定する。
- ④ 図表の番号は「第1図」「第2表」などとする。1つの番号の図表に何種類もの図表が含まれている場合はa), b), …として区別する。このとき、本文中では「第1図aによると」のように引用する。

付録中の図表の番号は「第A1図」などとする。

- ⑤ 引用する図表が出てくる本文の該当箇所の右横欄外に「第1図挿入」などと朱書する。
- ⑥ 図表の説明文はまとめて本文の末尾に付ける。論文・短報・解説については、図表の説明文を英文とすることができる。この場合、図表の番号はFig. 1, Table 2などとするが、本文中での引用時には第1図、第2表などとし、図表の説明を本文中でも行って、本文を読むだけで意味が理解できるようにする。